

<水稻の栽培ポイント>

今年も気温が平年より高く推移した事から生育が進んでいます。9月の平均気温は高い予報が出ていますので、普通植とちぎの星・あさひの夢の出穂は平年に比べて早まる可能性があります。

検査等級1等獲得と収量向上を目標に、適切な水管理や適期収穫など基本技術を徹底しましょう。

1 適切な水管理

- 引き続き、間断かん水を行います。特に、**出穂期～開花期**は最も水を必要とする時期なので水が不足しないようにこまめな間断かん水を行いましょう。(花水)
開花期を過ぎたら徐々にかん水間隔を延ばします。
- 出穂期～登熟期の異常高温時は胴割米や乳白米が発生しやすくなります。水温の下がる夕方から夜間のかん水を行って地温を下げ、根の活力維持を図りましょう。可能であればかけ流しも有効です。
(水利条件に応じて実施してください。)
- 台風襲来時の強風や、台風通過後の乾燥した強風(フェーン)が予想される場合は、やや深水とし、脱水による乳白米の発生を予防しましょう。
- 落水時期は**出穂後30日以降**として、品質・食味の向上を図りましょう。
(それまでは間断かん水で根の活性を維持しましょう。)

2 斑点米カメムシ類の防除対策

○除草

カメムシ類の対策は除草が基本です。水田周辺のイネ科雑草の結実を長期間抑え、カメムシ類の水田への侵入を防ぐため、**水稻の出穂2～3週間前と出穂期頃の2回除草**を行いましょう。**両時期の除草ができない場合は、水稻の出穂期10日前までに除草**を行いましょう。

※出穂期：一粒でも止葉から籾が出たら出穂とみなし、ほ場の全茎数の40～50%が出穂した日のことです。

※**出穂期前後のみの除草は、カメムシ類を水田へ追い込み、水稻の穂を集中加害させることになるため、原則行わない**ようにしましょう。

○薬剤防除

出穂期から穂ぞろい期頃に水田内で斑点米カメムシ類が認められる場合には、薬剤防除を行いましょう。**液剤は出穂期7～10日後まで、粒剤は出穂期～出穂期7日後までに散布**しましょう。その後も斑点米カメムシ類が見られる場合は、7～10日間隔で1～2回追加防除しましょう。

※小型のカメムシ類(イネホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ)には粒剤や豆つぶ剤の防除効果がありますが、大型のカメムシ類(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ)は、直接薬剤がかからないと薬剤の効果が十分に発揮されないため、粉剤や液剤で防除を行いましょう。

【イネカメムシに注意しましょう！】

イネカメムシは大型の斑点米カメムシ類の一種です。基部斑点米を発生させる他、ほ場内に多発生し、出穂期から登熟初期に集中的に籾を吸汁されると、**不稔を発生**させます。発生量が多く、適切な時期の薬液散布が行えない場合、**大幅な減収となる可能性**があります。管内でも、発生が確認されていることから、ほ場内をよく観察し、早期発見・早期防除に努めましょう。

○薬剤防除

- (1) **不稔防止のため、出穂期に液剤を散布**しましょう。
- (2) **斑点米防止のため、出穂期7～10日後頃に液剤を散布**しましょう。
その後も発生が認められる場合には、追加防除を実施しましょう。



イネカメムシの成虫
(体長12～13mm)

(裏面あり)

3 雑草種子の混入について

○近年、ライスセンターで荷受けする粳や玄米に、雑草種子の混入が見受けられます。特にクサネム、ヒエが目立ちますのでご注意ください。

☒ クサネム

容易に抜けるので、収穫前に手で抜き取りましょう。水路側から侵入することもあるので、水回りの際に注意して見ておきましょう。

☒ ヒエ

鎌などで除草してから収穫作業に入りましょう。また、除草したヒエを畦や圃場のすぐ脇などにまとめて放置すると種子が落ちて来年発生する原因になります。除草したヒエは、水稻ほ場外に廃棄しましょう。多発生しているほ場では、来年の除草剤や水管理を見直しましょう。

4 適期収穫を行いましょ

○収穫作業は、帯緑色粒率が10%になったら開始し、3%になるまでに終了しましょう。葉や枝梗は緑色でも、粳はすでに黄変して刈取適期を過ぎている場合がありますので注意しましょう。

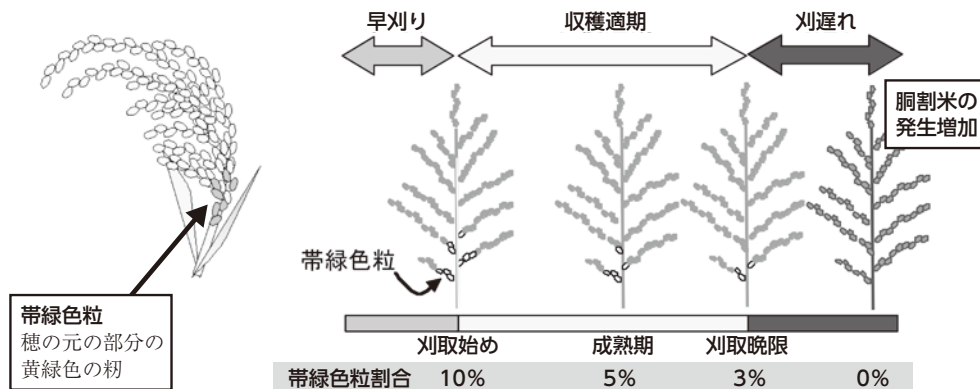
☒ 早刈りは青米が多く減収となります。

☒ 刈り遅れは胴割米発生、色沢の低下等により品質・食味が低下します。

【刈取適期の判定方法】

○平均的な生育をしている数か所で5～6本の穂をまとめて握ってみます。

○穂全体に占める帯緑色粒の割合で判定してください。



5 適切な乾燥調整作業について

① 粳水分と刈取時期

刈取り粳水分は25%以下となってからが適切です。適期を過ぎ、立毛状態で過乾燥になると胴割米発生の危険が高まります。

コンバイン各部の清掃をしっかり行い、他品種や昨年の粳や麦の混入が無いようにして下さい。また、高水分刈取り粳は長時間放置せず、速やかに乾燥機に投入し通風乾燥を行いましょ。

② 乾燥温度

乾燥不足や過乾燥を防ぐため、必ず水分計を用いて水分測定を正しく行って下さい。乾燥ムラは、夾雑物が多くて乾燥機内の循環不良を部分的に起こした場合や、水分較差（高い水分の粳と低い水分の差）の大きい粳を混合した場合などに発生します。

胴割れの増加を防止するため、高水分粳の高温急激乾燥は絶対に行わないでください。

高水分粳の乾燥はまず通風乾燥を行い、その後35℃程度の低温からじっくり時間をかけて乾燥作業を行います。高水分粳の放置や急激な乾燥による品質低下がないように注意しましょ。

目標水分値 14.5%で乾燥調整を行いましょ。



9月～11月は「秋の農作業安全確認運動」の実施期間です。

コンバイン作業中にわらが詰まった際は、エンジン停止後に除去